

目白研心中学校・高等学校 第4次中期目標・中期計画（期間：2022年4月1日～2027年3月31日）

中期目標	中期計画	担当部署	2022年度の計画
<p>1. 「主師親」を現代的視点で解釈し、教育活動に活かす。</p> <p>〔 主＝自主性 師＝表現力・発信力 親＝協働する力・多様性への寛容</p> <p>2. 時代に対応した教育力の向上を図る。</p> <p>3. グローバル化の進む社会で活躍できる資質を養う。</p>	<p>(1) 挑戦する意思を支えられるよう教育環境を整える。</p>	<p>・ 全校</p>	<p>・ 学校内外で実施されるスピーチコンテスト、論文コンクール等への積極的参加を促す。</p> <p>・ 漢検・数検・英検に対し、目標級合格への指導を積極的に行う。</p> <p>・ 生徒が自身の進路について多角的に考え、自ら選択できる環境を整える。</p>
	<p>(2) 発信力を伸ばす教育を実践する。</p>	<p>・ 全校</p>	<p>・ 全コースにおいて発表活動を取り入れた授業実践を推進する。</p> <p>・ 発信に必要な tool の使い方と情報モラルを学ぶ教育機会を十分に提供する。</p>
	<p>(3) 共感する心を育む「探究の時間」と協働する力を育むクラブ活動を充実させる。</p>	<p>・ 高校</p> <p>・ 生徒指導部</p>	<p>・ 社会について共に考え、話し合う時間を「探求の時間」のシラバス上に設定する。</p> <p>・ 社会活動への参加を推進する。</p> <p>・ クラブリーダー会議を立ち上げ、クラブ運営への自主性を養う。</p>

	(4) ICT を活用した授業実践を推進する。	・ 全校	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究授業や研修会を実施し、教員の ICT 活用技能を向上させる。 ・ 時代のニーズにマッチした PC 教室および Call 教室の改修計画を策定する。
	(5) 目標を明確にした進路選択を実現させる。	・ 全校	<ul style="list-style-type: none"> ・ 難関大学および海外大学への進学実績の向上を目指す。 ・ 指導法や使用教材等の教科内での共有と学内外での教員研修参加を促進する。 ・ 教科の枠を越えた授業見学を促進し、教員間の学び合いを積極的に行う。
	(6) 評価法の検討を進める。	・ 教務部	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高校新教育課程の実施状況を検証する。 ・ 絶対評価の導入に向け、教務内規を見直す。
	(7) 英語教育および理数教育を充実させる。	・ 全校	<ul style="list-style-type: none"> ・ 英語外部テスト受験率の向上と受験者のレベルアップに向けた支援体制を充実させる。 ・ 高大連携を推進する。 ・ 理系教科の横断型プログラムを検討する。
	(8) リベラルアーツ教育を推進する。	・ 全校	<ul style="list-style-type: none"> ・ 図書室の充実を図ると同時に読書指導の取り組みを具体化する。 ・ 質の高い芸術鑑賞会を継続し、かつ識者を招いての校内講演会も各学期に実施する。

	(9) 生徒の自主性を重んじた生徒会活動の活性化を図る。	・ 生徒指導部	<ul style="list-style-type: none"> ・ 行事の運営を教員主導から生徒主導へ段階的に移行させる。 ・ 一人ひとりの個性が尊重されるよう、制服の選択肢を増やす等、時代に合わせた校則への改正を行う。
	(10) SECの教育プログラムおよび教育内容を見直す。	・ SEC	<ul style="list-style-type: none"> ・ SECのプログラムを精査し特徴を強化することで、他コースとの差別化をより明確にする。
	(11) 時代に合った広報活動となるよう改善と充実を図る。	・ 広報部	<ul style="list-style-type: none"> ・ HPを見直す。 ・ 学校案内を改訂する。 ・ 多様化する入試制度と本校受験生の特徴を分析し、広報活動と入試改革を具体化する。 ・ 学校説明会において在校生が活躍する場を設け、教育成果のアピールと説明会の活性化を図る。